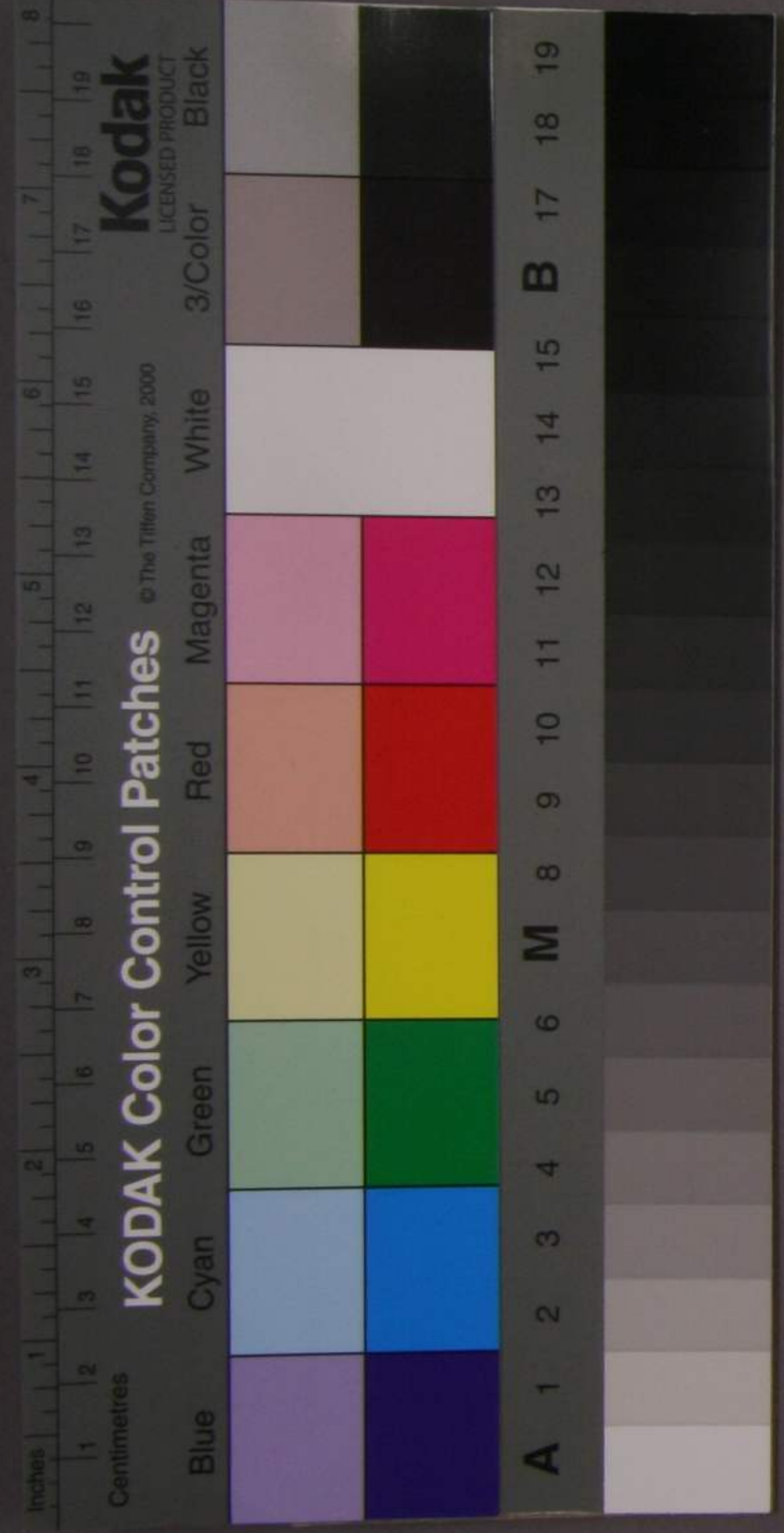


414
A1200



昨拜閣下益御多祥奉賀候却説
昨羊来出願之佐賀物産會社拜借
金之一糸モ今般貳萬圓丈御閑届相
成候様子同社負ニ於テモ一層奮奮日
夜事業ニ奔走致居是等全ク閣下之
御周旋ト御鞭策トニ依テ相運候事ト
小官ニ於テモ不堪拜謝候且又實地之利
益ハ獨リ物産會社而耳ナラス該地一般ニ
影響音聊進取之氣象ヲ誘ヒ候モノト相見既
ニ曰臘有志會舎農談會ヲ開キ該地緊
要之件々ヲ協議シ漸次實施之運ニ相向誠ニ
可嘉事柄ニ付於小官モ陰ニ獎勵之積ニ有

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈



之候素ヨリ御一覽ニ備ル程ノモノニハ無之候得
共現今實地之情状御推察之為別紙勸
業采女負之報告書寫進呈仕候間御兩暇
之際御一讀被下度此段早々敬白

明治十四年一月廿九日

内海 忠勝

大隈重信殿

明治十三年十二月

佐賀郡勸業談話會日誌

天
壽
系

佐賀郡勸業談話會日誌第一号

一 明治十三年十二月十五日佐賀郡水ヶ江村宗龍寺ニ於

テ開會本日晴談話會員出會人右

赤松村 倉永文辰 下今宿町 織田團次

大財村 板谷卯八 小副川村 藤田耐平

高尾村 蒲原儀助 尾寺村 野中清一

末次村 江副清次 東古賀村 御厨龍平

南里村 中村甚藏 鍋島村 松尾清七

木原村 北御門良昌 久留間村 坂口忠太

松瀬村 古賀景敬 高木村 大島善平

十五村 志波助作 東山田村 榎以和

大正十一年四月贈

長崎縣

勸業委員平方盤根各談話會負ニ述テ曰本會ハ縣廳甲第
 百四十三号布達ニ基キ農工商漁勸業一般ニ関スル利害
 得失ヲ論究シ凡ソ百般ノ事業ヲ開進勸奨シ専ラ公益ヲ
 謀リ物産蕃殖工藝盛隆我郡民ヲシテ富強セシムルヲ主
 要ト致シ年ニ二回ノ談話會ヲ開クノ定則ナレハ二月八
 月ヲ以テ開會ノ期月ト致スベシト雖モ本年ハ諸君ノ撰
 任モ昨今ニシテ素ヨリ創業ノ事ナレハ取敢ス諸君ノ勞
 ラ顧ミス本日ヲ以テ開會シ差向キ勸業第一ノ要點ヲ謀
 リ諸君ノ意見ヲ問ハントス

桑園ヲ蕃殖シ蠶業ヲ勸奨スヘキ程ノ物産ハ米穀ノ一

平方曰我佐賀郡ハ他ニ輸出スヘキ程ノ物産ハ米穀ノ一

ニシテ其他ノ農産ハ郡内自用ノ半バニ及ハス製造物品
 ハ又有ルモ魚キカ如シ故ニ米穀ノ一岳ヲ以テ郡中一般
 ノ衣食住ヲナセル者ノ如シ凡ソ其ノ會計ヲ概算スルニ
 戸數二万九千九百九十九其人口拾万七千三百拾六人其食
 料米一人ニ付平均壹石トシテ拾万七千三百拾六石ヲ代
 金ニシテ一石ニ付拾万。七千三百拾六石ノ處郡中田地壹
 万。〇。〇。三拾九町四反七畝八步一及步ニ付年米此一ヶ
 年ノ收穫米貳拾万。〇。七。百。八。拾。九。石。余ノ代金貳百萬。
 〇。七。千。八。百。九。拾。四。町。余ノ内地稅金拾六万三千五百九拾
 壹町四拾七錢三重卜前ノ飯料代金ト引ケハ残り金七
 拾七万四千百四拾貳町余トナル之レヲ人口ニ割レハ壹人

一ヶ年ニ金七圓拾八錢余ニシテ是レヲ方今衣食住改良ノ最モ盛ニナルニ支出スレハ必ラス幾分ノ不足ヲ生セサル能ハス若シ一人ニ金壹圓ヲ不足スル時ハ郡中ニハ拾万七千有餘圓ノ不足トナル夫レ此不足タルヤ物産不足シテ一郡ノ輸出入不平均ヲ致スヨリ来々セシ一郡ノ負債也然レハ年々其負債ヲ償却シ尙幾分ノ餘慶ヲ産出セシタルニアラザレハ我郡民ノ富強ヲ増進スルノ期アルヘカラス然ルニ農家若シ從來ノ慣習ヲ改メ當郡一般ノ田畑ヲ以テ菜園トナシ郡民等ヲ蠶業ニ従事セハ農工ノ業共ニ興隆シ數年ヲ出スレテ其益今日ノ十倍ニ及ブヘシ今試ニ其計筭ヲナスニ郡中田畑壹万千六百八拾

六町四反余歩ト云ラ人口ニ割レハ一人別ニ壹反余歩トナル是レニ菜木ヲ栽培スルヲ六百餘株ニケ年ノ後ニ至レハ一株ニ六百四十反ノ葉ヲ生ス之レヲ一反ニ積レハ則チ三百八拾四貫目余也之レヲ以テ種紙ニ枚ヲ蠶養スルニ中等ノ出来ニシテ其繭貳石トス當時ノ價格ニシテ其俵賣ルニ金百圓ヲ得ヘシ此内地稅金四圓ト一人ノ食料米代金貳拾圓トヲ引ケハ殘金七拾六圓トナル是レ則チ前ニ算記スル米穀計筭ノ殘餘金ニ比スレハ殆ト十倍ノ増加ナラスヤ之レニ加フル製糸織工ヲ以テスレハ又其ノ一倍ノ利益ヲ増スハ既ニ余輩カ經驗シテ知ルノミナラス厚生會社及ヒ倉永文辰等二三ノ有志者ノ確知ス

ル如ナリ然レ氏今一時ニ是レヲ改良スル能ハサレハ郡
内篤志者ヲシテ菜木ノ適スル土地ヲ有セシ者試ニ先
ツ幾畝歩カ菜園トレ能ク培養ヲ施シ應分ノ蠶養ヲレテ
得ル如ノ益ト從來ノ粟麥蔬菜ヲ播培シテノ利益ト孰レ
カ大ナルヤ実地ニ就テ試験シ果シテ其利益ヲ認ルニ於
テ近傍ノ有志者ヲ勸奨誘導之々有リ度今幸ヒニ厚生會
社内ニ養蠶義會ヲ設ケ會員既ニ百六拾名余各自ニ多少
ノ養蠶ヲテシ得ル如ノ繭ヲ本社ニ聚メ本社ハ社費ヲ以
テ製糸ノ教師ヲ備シ一層精良ノ糸ヲ製シ輸出シテ其價
格ヲ増シ各會員ニ配與スルニ當初出スル繭ノ多クニ
應ズ又會員外ノ者ト雖モ繭ヲ賣ラント欲スル者ハ多少

ヲ向ハス相當ノ代價ヲ出シテ買入レ固ヨリ該社ハ曰藩
主ノ深意ニ出ル厚生會社ニシテ決テ本社ノ為メニ利ヲ
欲セズ專ラ勸奨誘導ヲ主トスル者ナレハ今此ノ旨趣ヲ
親シク町村民ニ報告ニ先ツ明春ニ於テハ在來ノ菜葉ア
ラニ限リテ蠶養セシメ其繭ヲ本社ニ賣ラシメ其益ノ大
ナルヲ知ラシメ度惣シテ年々歲々盛大ナラシメテ
希望ス
談話會員皆同意ス

一同十六日晴本日出會人名前日ニ同シ
一大島善平曰菜木ハ總テ田地ニ植テハ決シテ盛長スル

能ハス何トナレハ従来米田トスル地ハ一尺内外ノ下ニ
盤土アリテ其盤土ヨリ下ニハ根ノ入ル能ハザレバナリ
其証トスヘキハ近年我在住スル高木村邊ニ吉村某或田
地ニ栽培シ數年ヲ経シ此聊カ盛長ノ期ナク終ニ又米田
トナセリ

中村甚藏曰全ク其例トモ思ハラス我在住ノ南里村ニハ
則チ従来ノ米田ヲ以テ菜田トナシ其培養ニハ八田江ナ
ル泥土ヲ入レタルニ意外ノ繁茂ヲナシ今現ニ其菜葉ノ
利益米田ノ一倍ナリ且又例年損毛ノ恐レナク唯養蠶ノ
盛衰ニ因テ聊カ菜葉代價ノ高下アルノミナレハ自ラ其
菜葉ヲ以テ養蠶スルニ於テハ其益必ス大ナルベシ

大島善平ノ云フ菜田ハ後ニ開クニ該地ノ固ヨリ地ニ
シテ近傍ノ田地悉ク水道ヲ廻ハシ引水ノ場所ナレハ水
常ニ浸入シテ菜根ヲ注ク故ニ盛長致サレル者ナリトケ
様ノ地ハ謂フ如ノ盤土共凡ソ三尺ヲ掘リ其土ヲ上下シ
凡ソ五六尺間々ニ高ク切り揚ケ其高キ如ニ栽培シテ高
木仕立ニスレハ繁茂致サレルナリ
一坂口忠太曰我久苗間村ノ内今山分ノ山野元三ヶ村ノ共
有草場ノ内凡ソ五町歩程ノ土地最モ上土ニシテ日向ヨ
ロシク開キテ楮ヲ栽培レ遂ニ其益ヲ以テ村費ヲ補ハシ
テ謀リシカ凡ソ楮ハ一反歩ニシテ何程ノ益アル物ナ
ルヤト平方云楮モ隨分然ルベケレ凡ソ菜ニ比スレバ

其益三分ノ一ナルベシ但シ其地ヲ開キ一反歩ツ、業ト
 楮トヲ植ヘ等シク培養手入ヲナレ試ニ玉フベシ
 一平方云水産雜誌第壹号ニ章魚ヲ捕ル奇法ト題シテ章魚
 ラ捕ル奇法ハ先ツ麻敷ニテ束莖ヲ造リ之レヲ燻シナカ
 ラ其灰ヲ水面ニ落シテ浮流セシムレハ章魚ハ其光ト香
 ラ逐フテ此所ニ群集シ来ルモノナレハ其時手早ク釣ヲ
 用テ引懸捕ユルナリト南部地方ノ人ノ物語リトアレハ
 當郡相應津邊ノ漁夫ハ常ニ章魚ヲ捕ルニ教エテ試ニ度
 ト中村甚藏曰夫レハ最モ便利ノ仕方手易キ事ナレハ取
 敢ス試ムベシト云
 一同十七日晴本日出席人谷前日一同レ但藤田尉平欠席ス

佐賀郡輸入ノ唐糸ヲ防ク方法ヲ談ス

一平方磐根云内国輸出ノ物産ハ生糸製茶ヲ第一トシ輸入
 ノ物品ハ唐糸金巾ヲ以テ第一トスルハ皆人ノ知ル如ニ
 シテ僅カニ我佐賀郡内ニ輸入スル唐糸ニシテモ其高ヲ
 概算スルニ九ソ一ヶ年一人ニ付壹竹元トシテ拾万七千
 三百拾六竹ヲ輸入ス其代價五万三千六百五拾八圓ナリ
 此内現綿代金三万七千五百六拾四六拾弍ヲ引クニ壹万
 六千〇九拾七圓四拾弍ハ製糸料ナリ是レ全ク他邦ニ出
 ス製糸料ニシテ我郡内ノ年々損失スル如ナリ抑モ唐糸
 ハ手弱ニシテ其實冷湿ヲ含有シ衣服ノ料ニハ善良ナラ
 サルハ人皆知ルト雖モ内国綿ニ製糸料ヲ加フル時ハ其

價高賣ナレハ目前ノ小利ニ違ヒ且ハ自分是迄用ユル如
 ノ製糸車ヲ以テスレハ一日ニ僅カニ拾五匁内外ノ糸ヲ
 製出スレバ數日ヲ費スノ不便トヲ以テ唐糸ヲ要スルモ
 ノナレハ今彼ノ他邦ニ出ス一ケ年ノ製糸料ト云壹万六
 千四百ヲ以テ紡績器械ヲ求メ各自ノ需用スル分ヲ製糸
 スルモ年々一万六千四ツノ益ヲ得ル今余ガ試驗シ得
 ル如ノ器械ハ熊本地方ニ專ラ行ハル、一小器械ニシテ
 方今菅郡内ノ二三ノ有志者ガ所持スル器械ニ比スレハ
 最モ輕便ナル物ニシテ具價モ下料ナリ右ノ壹万六千余
 圓ニテハ此器械千挺ヲ求メ得ベシ總テ十二三歳ノ女子
 一人ニテ取扱ヒ一日ニ綿百六拾匁ヲ糸ニスルハ是ハ容

易ナレハ千挺ノ器械ニテ一ケ年ニハ三拾六万匁ノ糸ヲ
 製出スルハ五萬餘圓ノ製糸料ヲ得ルニナル果シテ
 然レハ一ケ年ニシテ器械ノ元價ヲ消却シ尚三万有餘圓
 ノ利アリ是レ則我郡ノ益トスル也依テ今其器械千挺
 ナラスモ其三分ノ一則千三百挺各戸長部内ニ拾挺ツ、
 ラ備テモ大概我郡内ニ唐糸ノ輸入ヲ防クニ至ルヘシ然
 ル時ハ我一郡落ニ於テ苟モ女子三百人ノ事業ヲ以テ年
 々壹万六千圓ノ利益ヲ生スルノミナラス全国ニ對シ外
 國輸入ノ幾分ヲ減スルノ國益トナルヘシ然リト雖モ郡
 民亦々此便益ヲ覺知セサレハ万ニ口述報道ヲ以テ勸奨
 スルトモ喜ニテ之レヲ購求スルノ勢ヒニ至ラス依テ今

其ノ現品ヲ授ケ各自ノ手ニテ實際之レヲ試験シ其実益
ヲ確知セシメテハ心ス一村ニ二三ノ有志者現出シテ多
少器械ヲ求ルニ至ルヘシ其方法ハ該器械三挺ヲ買入是
レヲ先ツ談話會員ノ内三谷ニ其製糸法ヲ傳授シ日數十
日ヲ限リ貸渡シ此旨趣ラシテ其村内ニ觸レ示シ有志ノ
者ハ未テ自ラ試ミ十日ノ内ニ二三ノ卒業者ヲ得テ乙ノ
談話會員ニ渡スニ前法ノ如クス斯ノ如ク次第ニ傳達ス
ル時ハ三挺ノ器械ニテハ六ヶ月ニシテ全郡ニ涉リ而シ
テ其便益ナル確實ハ証ラ現ハシ各村ノ有志者ヲシテ或
ハ十戸或ハ貳拾戸ニシテ一挺ノ器械ヲ備ユル等ノ便法
ヲ設ケルニ致セハ一人前ノ出金モ多シトセサレハ一

村ニ三四挺ツ、ノ器械ヲ維持スルハ容易ナルヘシ因テ
今願クハ該器械三挺代ヲ勸業費定額金ノ内ヨリ振替ヲ
以テ買入數月ノ内郡民購求スルニ至テ此三挺ヲモ共ニ
望ミノ者ハ幾分ノ損料ヲ減價シ拂下其振替金ノ内ヲ消
却致スヘキ見込ミナリ

談話會員皆同意速カニ器械製下ニテ希望ス
大島善平曰該器械ニテ荒マシ製糸ニ別ツニ縷懸器械ヲ
製造シ一通リ縷ヲ懸シハ一層精良ノ糸ヲ製ス縷クハ縷
懸器ノ便利ナルヲモ製造相成度ト

一同十八日晴本日出會人石十五日ニ同シ

一平方曰縮其外種子交換ノ義ニ付本縣勸業課ヨリ當郡役所工照會相成候趣キヲ以テ同役所ヨリ相談相成候ニ付テハ談諾會員ノ内ヨリ各種差出サレマシヤ若シ自費ヲ以テ相成カケケレハ御買揚ケ之レ有ヘク亦自費ニテ差出置レナハ必ス其交換種幾分カ相渡サルヘシト因テ差出スベク申シ出ル人右

久留間村

坂口忠太

一小麥 一莢大豆 一菜種

一夏小豆 一粟 一糯米

一糯米

尾寺村

野中清一郎

一大麥 一裸麥 一赤粟

一正コ 一ゾ 小副川村

小副川村

藤田尉平

一中稻 一秋小豆

東古賀村

御厨龍平

一赤小麥

高尾村

長山縣

蒲原儀助

一晚 稻貝ツツリ

未次村

江副清次

一晚 稻毛ミロク

佐賀旧城内ニ農学校設置致シ度ク丁ヲ談ス

一平方曰抑モ国ノ本ハ農也農事盛ニナラサレハ百業閑進
スル能ハサレハ衆皆十知ル処ナリ然ルニ我佐賀郡ノ農
事見ルニ草ニ田習ニ泥ニ米穀ヲ以テ農産ノ極益ナル

物トシ一反歩ニ百四ノ産ヲナシ得ヘキ地カヲ有シナカ
ラ僅カニ二石内外ノ米産ヲ納レテ安スルハ唯リ農家ノ
損失ノミナラス由テ興ルヘキノ工事ナク隨テ商業モ又
盛ニナラス為メニ一般ノ衰頽ヲ未タスニ至ル今其ノ農
事ヲ改良シ郡民一般ノ富強ヲ致サレハルニハ學術教力
ヲ以テセサレハ閑進ノ期アルバカラス因テ今爰ニ一ノ
農学校ヲ設置セシ丁ヲ企望ス其学校設置ニ付テハ幾分
ノ資金ヲ要セサル能ハサルニ當時民費多端ノ折カラ甚
々容易ナラスト雖モ凡ソ百般勸業ノ一點ヨリ其盛衰ヲ
ナス若ナレハ其根本ナル農事ヲ盛ニシ郡里ヲ富マ
ス資本ヲ募ルニ農工高漁一般ノ郡民争テ力奉テ力ヲ尽

長崎系

甘、ルヘケンヤ又曰藩主ヲ始メ我郡里ノ人當時榮官ノ
向勤ナカラサレハ其旧里ノ人民カ苟クモ骨血ヲ絞リ汗
水ヲ流シ尽力勉強シテ国ノ富强ヲ謀ルヲ徒ラニ外見致
サルヘキニアラサレハ資金ノ募取モ又難カルマシ殊ニ
今聞ク我旧城ノ建物ヲ毀テ拂下ヲ出願シ既ニ其許可ヲ
得ントスル者アリト因テ今我郡民曰永ノ城蹟今日ニ至
テ全ク毀滅セントスルヲ見遺憾ノ情ヲ以テ幾分カ保存
致シ度内議中ナリ夫レ其ノ旧城ヲ以テ其終農学校ニ出
願シ許可ヲ得ルニ於テハ第一旧城保存ノ方法自ラ相立
ハ心ヲシテ穩マカナラシメ且ハ学校新築ノ費ヲ減シ殊
ニ該所ヲ以テ農学校トスル時ハ杵島以來ノ諸郡ニ希望

シ寄附金募取モ又易カルベシト談話會員皆同意シテ曰
速ニ願書差出サレハ彼ノ拂下望願者切迫致シ若シ夫
レニ許可相成候テハ後悔スル証ナカルベシト仍テ平方
ハ早速願書草案ニ着手ス

二同十九日暗本日出會人谷前日ニ同シ

一平方曰水ヶ江村興賀村戸長役場ニ出頭旧城内ニ農学校
設置ノ義ヲ談スルニ戸長等皆同意シテ曰其旧城内建物
ヲ毀テ拂下度望願者之レ有ルニ付石垣表門大ケハ郡民
共有ニ御拂下相成度出願致ス方ニ之レ有ルヘク旨郡長
ノ談シニ付願クハ玄関犬ケヲモ保存致度証議スル処ニ

候正に右建物ヲ残シ後年修復等ノ費用ニ困難スベケレ
 ハ先石垣丈ケニテ然ルベク旨郡長談シノ都合モ之レ有
 ルニ付折角其願書取立中ナリ然レハ若シ其ノ農学校用
 右建物等御下渡ノ許可相成ルニ於テハ旧城保存モ自ラ
 相立至極幸ヒノ事ナレハ別段郡民ニ協議致サスレ之レ
 ヲ否ム若アルベカラスト仍テ願書我輩両三石ニテ上進
 致スベクト存候但シ郡役所ニモ右建物ノ内ヲ以テ新築
 ノ補トシテ折角拵下ノ望願之レ有ル由ナレハ元料理ノ
 間其外未引ノ分ハ右ノ御拵下用トシテ残り建物悉皆并
 ニ地所共其終御下渡之レ有度願書並ニ圖面ヲ取立候知
 十月

談詔會負皆同意ス

一同廿日晴本日出會人谷前日ニ同シ
 賣米改良ノ方法ヲ設クヘキコトヲ談ス
 一平方日当郡ハ米穀ヲ以テ第一ノ産物トシ年々輸出スル
 高殆ニト拾万石ニ及フベシ旧藩制度ニテハ肥前米ト唱
 正九州地方ニ於テモ幾分ノ價格ヲ増シタルハ人ノ知ル
 処ナリ然ルニ近年最モ下等ニ属シ價格ヲ失墜スルニ至
 リシハ今現ニ船積ノ米高来ルヲ報スレハ東西ノ中買商
 ハ露吹米ト唱正内儀ニ水ヲ吹キ注リハ勿論現米ニ湯水
 ヲ注入シ軟膨ヲ促カシ枰量ヲ増サシメ利益ヲ貪ラント

スルヲ見ル近來ニ至テ最モ甚シク實ニ惡ムヘキノ所業
 ニシテ若シ志石代價ニシテ志田ノ減價トナレハ佐賀郡
 ニハ拾万田ノ減價トナリ終ニ買フ者無キニ至レハ第一
 ノ物産魚益ニ屬シ共ニ郡民一般ノ産業ヲ失スルニ至ル
 ベシ仍テ今一時モ早ク此惡習ヲ改ルノ方法ヲ設ケン
 ラ切望スル処ナリ

蒲原儀助曰固ヨリ余モ此事ヲ苦慮スル知ニシテ抑モ此
 事ハ我高尾村ヲ以テ其源トシ専ラ奸商ノ所業ナレハ能
 ク其手締ノ方法ヲ設クヘシト專ラ米商共詮議中ナレハ
 不日ニ良法ヲ立テ御報ニ及ブベシト云

一平方曰去日相謀リタル紡績器械買入方法ノ義ハ郡長工

協談ノ知然ルベシト認可相成候工氏當年ハ勸業費定額
 モ半額ニテ既ニ談話會其他諸雜費ニ支出シ残り數ナニ
 相成候ヲ以テ明年度ニ相渡スベキトノ付是迄ノ諸
 費ヲ概算スルニホタニ拾四宗ハ殘金有ル者ナレハ審
 製造手附金トシテ其内少クニテモ相渡サレバ速カニ
 出来シ來一月早々ヨリ施行致シ度存シ僅カニテモ相渡
 サレマシヤ申乞候ヘ氏相叶ハス因テ先製造方見合セ置
 ク知ナリ農学校ノ下ハ倉永氏等近所ノ諸君ト相謀リ夫
 々手ヲツケ申スベク其他諸君ト相謀リ度キ事ハ万々之
 レ有リト雖モ一時ニ相成ルヘキトナラス殊ニ勸業ノ
 ハ何十日談話スル氏尽ルトナリ數日ヲ経レハ費用モ勤

ナカラス定額ノ程モ之レ有ル或ニ付當會ハ先ツ今日迄
ニテ開會致シ度就テハ諸君ノ任務平日ノ結科モナク談
話會日當丈ケナレハ平日ノ責任之レ無候ヘト相伺フハ
キ次第モ之レ有リ追テ何レト力相成ベク先ツ其間ハ豫
テ談話會莫ノ譯ニテ余輩ガ巡迴等ノ節御尋致スベキ義
モ之有ルベクニ付親シク御報相成度且方今勸業ノ第一
ト見込候ハ前會ニ於テ相謀リ候桑園蕃殖蠶業興隆ニ蠶
糸ノ産ヲ盛ニナラシメ且ツ紡績器械ヲ備エテ綿糸ノ輸
入ヲ防キ遂ニハ反ツテ其綿糸ヲモ輸出スベキノ方法
ヲ設ケ度哉々勸業ノ積リナレハ尚又諸君ニモ御注意相
成度旁御依頼致ス処ナリト仍テ皆ナ諾シテ散會ス

一其後農学校建設ノ願差出タル如郡長ノ意見ニハ勸業委
員ハ人民ノ營業ヲ勸奨スル職務ニテ農学校建設ノ如キ
ヲ自ラ願主トナルハ權外ノ事ニテ何分取次ガタリ又人
民ヨリ願ヒ出ルニテモ其資本ハ或ハ寄附金カ協賛力
又何程ノ金額ニテ後未斯ノ如キ方法ヲ立ル等ヲ確定細
記ニタル願書ニアラサレハ取次ガタリ却下相成一休
農学校ト云モ則チ勸業勸奨ノ器械ニシテ勸業委員ノ出
願スルモ權外ノ事トハ思ヒヨラス且ハ備テ該建物等毀
亡掛下ノ願切迫ノ趣キニ付若シ其内ニ御掛下ノ許可相
成候テハ後悔スモ詮ナキ次第ナレハ至急ヲ要シ且ツハ
軍未ニ至リ郡民協賛モ届キガタリ止ムヲ得ヌ郡長ニモ

此旨共ニ同旋相成度ト存シ右報書ヲ直ニ建白書トナシ
 平方一石ニテ郎長ニ充差出置候
 郎長ニハ如何ナル都合ニヤ中野兵次宅ニ参ラレ農学校
 ノ一ラ諮詢相成候由ニテ中野ノ答ニハ免角農学校建設
 ノ事ハ我郎ノ美事ニテ其資金ノ多少ヲ向ハス何程ニテ
 モ先ツ農学校ト云札ヲ掛ル迄ノ許可相成候バ、追々方
 法モ相立ベリト申シ置キタルナリト同氏ヨリ報知之レ
 有候其後郎長ニハ如何思慮致サレタルヤ建白ハ如何取
 扱ニニ相成タルカ不知

佐賀郡勸業委員

平方 蝦名 根

明治十三年十二月

明治十三年十二月佐賀郡勸業定期報告

当冬佐賀郡堂業ノ景況谷業各地ニ於テ聊カ異同アリト
 雖氏概スルニ日々雜弊ノ姿ニテ固ヨリ苗郡ハ米穀ノ一
 品ヲ以テ物産トシ其他ノ農産ハ郡内自消ノ半バニ足ラ
 ズ因テ製造物品ハ有モ魚カ如ク随テ高業モ亦盛ニナル
 能ハス就中当年ハ氣候不順ニシラ農産頗ル減耗シ全郡
 作毛平均ノ調表別記ノ如ク殊ニ晩手ノ米穀ハ虫害ニ罹
 リ最モ收穫ヲ減ス但シ筑後地方ニ比スレハ其害半バニ
 至ラスト雖モ当郡南部ノ各村ニ於テハ間ニハ皆否同様
 ノ場所モ有之因テ螟虫驅除ノ法ハ明春苗代田ニ於テ登
 主ノ蛾ヲ點燈ヲ以テ燒殺スヘキ連村申合スル処ナリ大

小麥播種発芽ノ景況ハ秋以来ノ旱魃ニテ土地頗ル乾燥
シ播種後モ尚潤雨無之シテ発芽ノ勢ニ甚々微ナリ菜種
ハ亦々発芽セサル分十二ニシテ八九発主スル物モ何分盛
長ヲ保スヘカラサルノ景狀ナリ

米價ハ近來日々ニ下落目今東ノ口ハ石ニ付拾四内外西
ノ口ハ九山内外ニテ郡内需用ノ分ハ日々賣買相変ハラ
スト雖モ近年湯水ヲ注入スル等ノ惡弊近來ニ至テ最モ
甚シキ故力旅商ノ買手絶テ無之因テ方今是レカ改良ニ
深ク注意スルト雖モ一端世ニ惡醜ヲ流布セシモノナレ
ハ一朝夕ニ旅商ノ難ヒヲ解ク能ハス目今專ラ其取締方
ヲ企謀スル処ナリ其他市街ノ商況日ヲ逐テ衰頹シ細民

ニ至テハ殆ト困難ノ場合就中帰高ノ士族多ク資本ヲ失
シ手ヲ空シリスル者多キヲ見出ス到底農工ノ二業ヲ以
テ救産ノ法方ヲ設ケザレバ此困難得テ救フ能ハザルヲ
覺ユ

当郡南部海邊ノ各村漁漁ノ景況ハ年々捕魚ノ獲ヲ減ク
シ当年ニ於テハ就中旱魃等ノ為魚類ノ生育甚々寡クニ
レテ各村漁民ノ内專業者千二百人農商漁兼業ノ者四百
人合テ千六百人ニテ一ヶ年獲ル如ノ魚具代金ヲ概算ス
ルニ凡ソ十五万円ニ不過其内漁具代三分ノ一ト積リ残
十方圓是レヲ右人口ニ割レハ一人別ニ六拾四圓ニ當ル
是ヲ以テ一户三人或ハ四人ノ家族ヲ養フ者ナレハ其活

計獲ル容易ナラサルヲ知レリ実ニ斯ノ如ク諸營業ノ
靡弊ナルニ方今衣食住ノ改良最モ盛ニナルヲ以テ平均
スル時ハ巨額ノ不足ヲ生ス其不足タルヤ一郡ノ負債ニ
シテ此係數年ヲ経ルニ於テハ終ニ一郡ノ身代ヲ擲ワニ
全ラニテヲ怖ル

一厚生會社ハ年来織工ヲ以テ恒産ナキ婦女子ヲ入レテ數
十ノ機ヲ備ヘ専ラ木綿織ニ從事セシメ又機具ヲ貸シ元
糸ヲ渡シ自家ニ在テ業ニ就ルニメ該社ハ固ヨリ田藩主
ノ深意ヲ以テ設置シタル則チ厚生ノ會社ニシテ夫テ本
社ノ爲メニ利ヲ貪ラズ勸業誘導ヲ主トスル自由ノ會社
ニ付當社ニ就テ事業ヲナス者ハ一時偶然ノ僥倖ヲ得ル

如キハアラサレモ永久確乎トシテ失敗ノ怖レアルナ
シ但シ此元糸ト云ハ全ク洋糸ヲ模倣ヨリ買入ル、物ナ
レハ当地方ニ於テ紡績ノ業ヲ盛ニナラシメ内国綿糸ヲ
製出スルノ方法ヲ設ケ尙一層投産ノ道ヲ開キ公益ヲ增
進セニテヲ希圖ス

一國産ノ大ナルハ生糸ヲ以テ第一トシ農利ノ最モ多夥ナ
ルハ桑園ノ益ニ若クモノナク苟シクモ此ニ業興隆スル
時ハ隨テ商業モ又盛ニニスヘキノ見込ヲ以テ近來厚生
會社内ニ養蚕義會ヲ設ケ倉永文辰平方磐根等五六ノ有
志輩專ラ擔任シテ元城郭内地ニ栽培セシ桑葉ヲ以テ明
春養蚕ノ方法ヲ設ケ勸奨スルニ入會スル既ニ百六十余

天
奇
系

長
明
系

名ニ及ヒ意外ノ盛會ト相成各負蚕種ヲ望ムノ高最モ多
量ニ至リ桑葉不足ナルヲ以テ近傍各地ニ栽培スル如ノ
桑葉モ悉ク買揚ケルヲ拾三万斤トナルヲ以テ應分ノ蚕
種百二十枚余ヲ各負ニ配分シ各自ニ養蚕ノ業ヲナスト
雖モ互ニ通信親睦シ得ル処ノ繭ヲ本社ニ聚メ本社ハ上
列前橋製糸場ニ於テ卒業ノ製糸教師ヲ備シ一層精良ノ
糸ヲ製シ或ハ生徒ヲ入レテ習熟セシメ漸次盛大ニ及ホ
シ盛ニニ生糸ノ輸出ヲナサンコトヲ謀リ信永文辰ハ方今
一ノ蚕室ヲ建築シ專ラ蚕具改良ノ事ニ尽力中ナリ

一物産會社ハ楮葉竹等ヲ以テ專ラ紙製ノ業ヲナス然レモ
亦必創業ノ際ニシテ其損益分明ナラス道路ノ説ノ如キ
ハ如何ナル都合ニヤ近來不景氣ニテ株主モ其株ヲ賣リ
退社ヲ望ム者モ有之外見ノ洪大ナルニ内分ノ景況相
違ノ弊ニナルヤノ趣キナリ

佐賀郡勸業委員

明治十三年十二月廿五日

平方磐根

長壽縣 勸業課御中

長壽縣

明治十三年肥前國佐賀郡普通農産表

物名	一及別	及三付平 年産額	本年 産額	平年比較部廻 増減	石三付通價
米	一万〇三千九町四反七畝八步	二石	十五万。四百七十三石六斗	四ア	十 四
糯米	千〇三町九反四畝步	一石八斗	千四百四十五石六斗	二ア	九 四
大麦	百六十四町六反九畝步	一石九斗	二千五百。三石二斗	二ア	六 四
小麦	二十四百九十六町八反九畝步	一石五斗	三万九千九百六十二石六斗	二ア	七 四
裸麥	三百二十九町三反五畝步	一石八斗	四千七百四十二石六斗	二ア	六 四
粟	百三十五町六反五畝。五步	二石	千三百五十六石五斗	五ア	五 四 五 十 五
大豆	四百十町七反三畝廿步	一石	四千百七十七石三斗		八 四
蕎麥	二百七十四町四反六畝九步	一石	二千百九十石七斗	二ア	六 四 八 十 五

長
短
表

肥前國佐賀郡普通農産表
 明治十三年
 一、米
 二、糯米
 三、大麦
 四、小麦
 五、裸麥
 六、粟
 七、大豆
 八、蕎麥

製造品表

物名	地谷	産額	通價
紡績車	嘉瀬宿	三千六百五十挺	一枚三付二十七钱
綿質操	右同所	五千八百五十挺	一挺三付二十五钱
水囊	道祖元町	一万八千二百ヶ	一ヶ二付大小平均六钱
竹皮笠	蓮ノ池	七千二百枚	一枚三付大小平均五钱
蠟燭	八戸町	五千六百斤	一斤二付二十三钱
鬢附	八戸町	二千五百七十斤	一斤二付八钱
素麵	蓮ノ池	六千三百斤	一斤二付四钱五厘

昭和十一年四月五日 農務省 農務局 農務課 農務調査課 調査員 長嶋 啓

長嶋 啓

系

Blank manuscript page with red vertical lines and faint bleed-through text.

長
樂
縣